



創造

地域・企業の協力

「地域を愛し、未来を創造するさしきっ子」という本校の総合的な学習の時間のテーマを受け、4学年では「地域の伝統と自分との結びつき」について学習を進めてきました。

これまでに学習したのが、葦北鉄砲隊や佐敷城跡といった文化財関係でした。

今回は、岩永醤油店に焦点を当て、111年の伝統を守り受け継いでおられる岩永幸三様から話を伺いました。学習後、竹下香緒さんは「水害にあっても、毎日一生懸命味噌や醤油をつくり復旧しようとしている岩永さんはとてもすごい。これも伝統の力とお客さんの力。私も何事にもあきらめずに挑戦しようと思います」と、感想を綴っていました。

地域の伝統について『探究』していく中で、人の生き方に『共感』し、地域の一員として『協働』しようという意欲を高めることができました。そして、ふるさと芦北を見つめ直す貴重な機会にもなりました。



校種間交流



先日、芦北支援学校分教室の生徒たちや先生方約30名が校外学習で来校されました。

「自分たちで種を蒔き育てたノースポール、ネモフィラ、パンジーなど300本の苗を花壇やプランターに植えさせてほしい」というありがたい申し出によるものでした。一緒に活動した栽培委員長の三代暁紫さん(6年)は、「被災して花が枯れてしまい寂しい気持ちでしたが、花壇が華やかになり心も安らぎます。この後は、私たちが水かけをしたり、手入れをしたりして育てていきます」と、お礼の言葉を述べました。



花の栽培をとおした連携共育。本校にとっては、これからが本番です。

災禍の中、今年度はJAあしきた(サツマイモ栽培)、コメリ、うめのや、デコポン(聞き取り調査)、スカイドーム(施設提供)、芦北高校(ケーキ作り)、佐敷中学校(挨拶運動)、各保育園(体験入学)の皆様にもたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。

連携共育による『地域に立つ』学校づくり

家庭で「育てる」
地域・企業で「磨く」



学校で「鍛える」
校種間で「繋ぐ」

行政で「支える」



児童を中心に据え、5者で連携をとりつつ佐敷小学校をみんなで創り一歩前進させましょう！



各担当者の思い



いよいよ今回が最後になりました。初任者のコーチングを担っている指導教員と学校経営や組織運営の補佐を務める教頭からのメッセージを紹介します。

佐敷小学校を含め、芦北町・水俣市の学校に配属された5名の先生方の初任者研修を担当しています。高い志をもって教職について先生方が専門的で実践的な指導力を発揮できるように、日々研修に取り組んでいます。1日の大半は初任者研修に関わる仕事をしていいますが、それ以外の時間は佐敷小の教育活動に少しでも貢献できるように、先生方のお手伝いをしています。朝は、子どもたちの元気な挨拶と笑顔から、1日の活力をチャージしています。昼は、先生や友達の話を生懸命聞いたり問題に取り組んだりする子どもたちの姿から、「この子たちに確かな力を！」という教師としての使命感を奮い立たせています。

また、来校者や保護者の皆様からの連絡や情報に、学校は地域の皆様を支えているということに再認識させていただいています。夕方は、会議やプロジェクトチームのミーティングに加わり、教育活動に関する貴重な情報を得ています。子どもたちと直接触れ合う機会は少ないですが、学校の仕事に従事できることの喜びを常に感じています。

これからも、自分にできること・自分がすべきことを見つけて、ひたむきに頑張る佐敷小の子どもたちの笑顔を守っていききたいと思います。



初任者研修拠点校指導教員 中田 京子

雲一つない青空と桜の花に彩られた運動場で迎えた就任式・始業式。「自分のため、人のために考動する笑顔いっぱいの子さきっ子」を達成するために職員全体が力を合わせ、保護者や地域の皆様の信頼を得て、共に子供をを育てようとすることを目指してきた1年でした。



キーワードとともに振り返ります。

1 コロナ禍の学級委員の申し出に勇気湧く

PTA執行部の皆様と考え、保護者の皆様自身による協力をお願いしたところ、30名超の申し出がありました。「子供たちのために」という思いに勇気をいただきました。

2 「何もできない」ではなく「できる手立てを考える」

「家庭で楽しく親子でクッキング」「復興を願い親子で折り鶴・短冊づくり」等、PTAの皆様の知恵を絞った学年行事の数々。学校行事についても、何度も話し合い、感染防止に努めながら「佐敷復興スポーツフェスタ」や「新入学児童保護者説明会」を実施できました。子供たちの頑張る姿を多くの皆様に示すことこそが、未来への一步を踏み出すきっかけとなったことを職員と保護者で共有することができました。

3 すべては子供たちのために可能性を信じて(自助・共助・公助)

豪雨災害後の校舎内外の清掃、バス移動時の安全確保・送迎、田浦小・田浦中から佐敷小への運搬作業、職員・保護者・芦北町、多くのボランティアの方々からの支援等、実に多くの人の思いと意思をつなぎ、重ね合わせここまでできました。根底に流れていたのは、「子供たちのために」という思いです。それがあったからこそ、ここまでこれました。

共育を創る営みそのものがあった1年でした。これからも、共に育てましょう。共に育ちましょう。

教頭 林 浩也



星野富弘詩画展

入賞おめでとう!

最優秀賞 石井 晟君(4年) 優秀賞 早川 来琉君(3年)

星野富弘美術館賞 山下 舞咲さん(4年) 入選 山中 そらさん(5年)

※小学生の部応募総数 1094 点の力作ぞろいの中から見事入賞しました。